

Picture 5.1-8 燃料ガス受入設備

(2) 保温板金

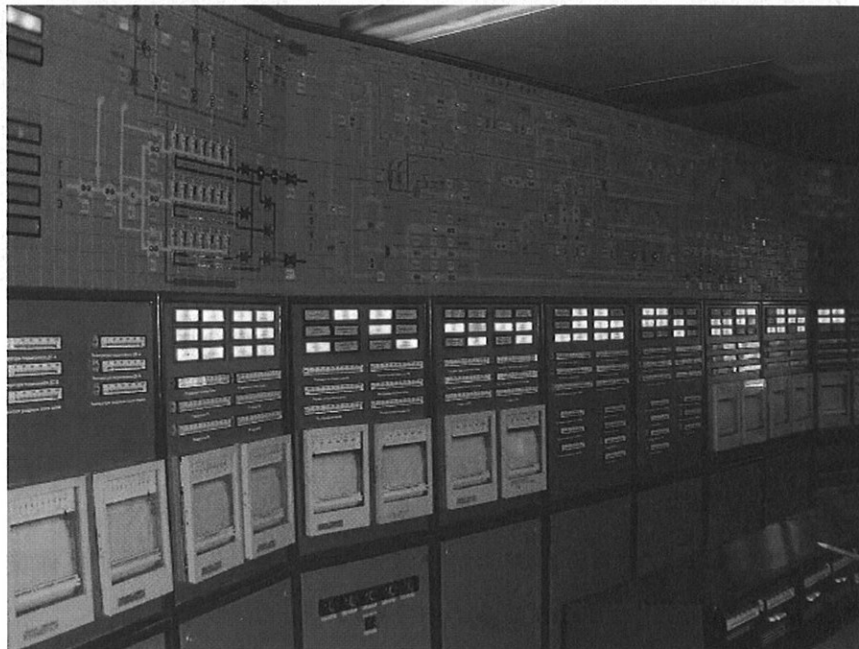
温水や蒸気の配管は、内部流体の温度低下を防ぐため通常大気と直接接触しないよう十分な厚みのある各種保温材を配管周囲に取り付け、更にその外側に板金を施している。しかし DC “TASHTPP”の構内にある配管類は、板金が外れ、保温材が剥き出しになっている物が多数存在する。中には保温材さえ脱落して高温配管が大気に直接接触しているところも存在している。このことは、配管内部の流体がもっている熱量を大気へ逃がしてしまうだけでなく、作業員などが火傷を負うなどの危険も含んでいるため、早急な対策が必要である。Picture 5.1-9 に配管保温の脱落状況を示す。



Picture 5.1-9 配管保温の脱落状況

(3) シミュレーション設備

発電所事務本館内には Picture 5.1-10 のような職員自らが現在製作途中の運転シミュレーション設備があり、一部稼動しているとのことではあるが、完成までには暫くかかりそうである。この設備が完成すると、操作員の操作能力の向上が図れることから、早急な完成が望まれる設備である。



Picture 5.1-10 シミュレーション設備

(4) 作業環境

タービン補機建屋内は Picture 5.1-11 のように、晴れた日の日中にも関わらず薄暗く、発電所構内、特にタービン補機建屋内は照明が不十分な箇所が各所に存在する。中には昼間でも真っ暗で足元さえ見えない場所もあり、歩行するにも足元に何があるのかさえ判らず、非常に危険であるので、早急な改善が必要である。



Picture 5.1-11 タービン補機建屋内の状況

また、Picture 5.1-5 のように定期検査や修理工事に伴う、工事区画の設定も行われておらず、その業務に携わっていない人間が工事現場に安易に近づける状況であり、路面の開口部などにも柵さえなく、危険な状態のままで作業している。更に作業員は安全装備品、例えばヘルメットや防塵マスクなどは着用せずに作業に当たっているのが現状である。



Picture 5.1-12 階段、歩廊手摺り

更にもう一点安全に関わる設備で、Picture 5.1-12 に見られるようにボイラー廻りのグレーチングの床、歩廊、階段や手摺りが貧弱な構造であり、現場を歩いていると日本の設備に慣れている者にとっては、怖さを感じる設備である。加えて12台ものユニットがあるにも関わらず、各ユニットを識別する方法も取られておらず、誤操